東京都スポーツ大会軟式野球競技
公式野球大会注意事項

公益財団法人東京都軟式野球連盟

１．（公財）日本スポーツ協会が制定するスポーツ憲章ならびに（公財）全日本軟式野球連盟（以下「全軟連」という）の当該年度競技者必携を遵守し、球場内外を問わずマナーに充分留意すること。
２．大会でベンチに入れる人員は、ユニフォームを着用した監督30番を含む選手25名以内とチーム責任者、マネージャー、スコアラーおよびトレーナー（有資格者）各１名とする。
３．監督会議で説明または決められた事項は、チーム全員に必ず徹底する事。
４．出場チームは、１試合につき指定の試合球（ケンコーボールＭ号）３個を持参すること。
５．試合中いかなるヤジも認めない。（競技者必携P11･12･57参照）
６．指名打者ルール（ＤＨ制）を採用することができる。（競技者必携及び公認野球規則参照）
７．投手の12秒及び20秒ルールを適用する。
８．バッターボックスルールを適用する。
９．ベンチは組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ただし、同一チームが２試合続けて行う場合はベンチの入れ替えは行わない。攻守の決定は１回戦より、監督または主将および役員または審判員立会いのもと行う。
10．大会指定の打順表の提出は、その日の第１試合のチームは開始予定時刻45分前までに、第２試合以降のチームは前の試合の４回終了時までに、監督または主将が本部に提出し、照合を受けること。
打順表の記入は、参加申込書に記載された監督･コーチおよび選手を必ず全員フルネームで記入すること。
11．試合開始時および終了時にも９名以上いないチームは棄権とみなす。
12．メディシンボール等、アップ、トレーニングのための補助具は打順表の提出までは使用することができる。
13．**シートノックの有無に関わらず、ベンチ前のサイドノック及び外野サブノックの実施を認める。**
内野手はベンチ前のスペースを利用し、塁間程度の距離でゴロ捕球練習を行うこと。外野手がサイドノックを行う際は、一塁または三塁後方のファウルテリトリー（アンツーカー:土の部分）から、安全な方向に向けてノックを行うこと。ノッカーにボールを渡す選手、または野手からの送球をノッカーの付近で捕球する選手（中継者）は必ずヘルメットを着用すること。
14．大会の秩序を乱し、その進行を妨げる行為をした場合は、当該選手とチームに対して大会役員の合議により相当の措置をとる。なお、暴力行為を行った選手は理由の如何を問わず、直ちに退場させるとともに出場停止処分を行う。また、放棄試合は絶対に許されない。
15．試合において不正を行ったチームに対する措置
（１）試合中に発覚した場合は、その試合を没収し相手チームに勝利を与える。
（２）試合終了後に発覚した場合で、勝利を与えられるチームが、何らかの理由により次の試合ができない場合は、次の対戦相手チームに勝利を与える。
（３）決勝戦終了後に発覚された場合は、準優勝チームを優勝とする。
16．第２試合以降のバッテリーのブルペン使用は、シートノックの有無にかかわらず、打順表を提出し照合を受けた後、５回終了または１時間15分を経過した後は、先発バッテリーに限り投球することを認める。ただし、準決勝・決勝戦は打順表を提出し照合を受け、攻守決定後とする。
17．**打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、選手の安全確保を第一に、その程度を問わず、球審は臨時代走者の処置を行わなければならない。9人の中から打順の前位の者を代走者と認めて試合を進行する（ただし投手及び投手兼任のDHを除く）**
18．プレイを利用して相手選手を欺く行為（アンフェアプレイ）を禁止する。現実に欺く行為が行われた場合ボールデッドとして審判員の判断で進塁を認めるかプレイを無効にする。
19．ベンチ内での電子機器（携帯電話・パソコン等）の使用を禁止するが、電子スコア記録用として１台の使用を認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り１個の使用を認める。
20．サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、投手はミラーレンズ サングラスの使用はできない。
21．大会は７回戦または時間制限として試合開始後１時間45分を経過した場合は新しいイニングに入らないこととする。
22．準決勝・決勝は時間制を適用しない。ただし、グランド状況、天候等により時間制を設ける場合もある。
23．正式試合は５回を終了すれば成立するが、５回以前でも規定時間に達したならば試合は成立する。
24．延長戦は行わず、７回終了または制限時間を過ぎて同点の場合は、タイブレーク方式を行う。
無死一・二塁、継続打順で、最大３イニングまで行い勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決定する。
ただし、準決勝・決勝は勝敗が決するまで行う。

25. 得点差によるコールドゲームを全ての試合に適用する。４回終了時10点差、５回以降７点差とする。
26. 暗黒降雨などで、５回を終了または制限時間を過ぎて正式試合になって同点で試合が中止となった場合は、 特別継続試合とする。なお、制限時間内で５回以前に中止となった場合は再試合とする。
27. 抗議のできる者は、監督または当該プレーヤーいずれか１名とする。
28. 時間制限の解釈について
（１）試合時間は大会本部または当該担当審判員が管理し、試合開始時間を両チームに通告する。
（２）試合制限時間に達した時は、審判員がそのことを両チームに通告する。

【ケース１】

チーム	1	2	3	4	5	6	7			計
A	0	0	2	0	3	1				6
B	0	0	0	0	2					2

・Ａがリードの６回表に１時間45分が経過した場合
⇒６回を５回と置き換えて、６回裏の攻撃まで行う。

【ケース２】

チーム	1	2	3	4	5	6	7			計
A	0	0	2	0	0	1				3
B	0	0	2	0	2					4

・Ｂがリードの６回裏のＢ攻撃中に１時間45分が経過した場合
⇒１時間45分を超えた時点で試合終了となる。審判員はその時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。

29. 監督またはコーチ等が１試合に投手の所へ行ける回数は３回以内とする。**この際、投手（内野手含む）にペットボトルやタオルを持参することができる。ただし、選手を帯同させることはできない。**
なお、タイブレーク方式になった場合は、１イニングに１回行くことができる。
30. タイムの回数制限
守備側のタイム… 捕手または内野手が１試合に投手の所へ行ける回数は、３回以内とする。なお、タイブレーク方式になった場合は、１イニングに１回行くことができる。野手が（捕手も含む）投手のところへ行った場合、そこへ監督またはコーチ等が行けば、双方１回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督またはコーチの回数には含まない。
攻撃側のタイム… １試合に３回以内とする。なお、タイブレーク方式になった場合は、１イニングに１回行くことができる。
31. ユニフォーム、装具については、決められたものを必ず使用すること。
32. ユニフォームの上着はきちんとズボンに入れること。
33. バットは改造加工したものは使用できない。 ただし、後付けフレアグリップの使用については、専用テープ等で完全に固定・ 被覆されたなだらかな形状のものであれば使用は認める。
34. 捕手は、Ｊ．Ｓ．Ｂ．Ｂのマークをつけた全軟連公認レガーズ、プロテクターおよびＳＧマーク付きのマスク（スロートガード付）、捕手用ヘルメット、ファウルカップも着用しなければならない。なお、攻守交替等に伴い捕手が用具着用中に、控え選手（出場中の内野手可）が準備投球を受ける際は、捕手用防具のすべてを着用しなければならない。着用できない場合は立って捕球すること。捕手はキャッチャーミットを使用することを推奨する。
35. 打者、次打者および走者は全軟連公認のＪ.Ｓ.Ｂ.Ｂのマークをつけた全軟連公認およびＳＧマークのついた両側か片側にイヤーフラップついたヘルメットを必ず着用すること。なお、イヤーフラップは両耳が望ましい。なお、ベースコーチもヘルメットを必ず着用すること。
36. スパイクの色は自由とし、全員が同色なくても構わない。ただし、野球用スパイクとする。
37. 打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、あるいは走者がアウトかセーフかという裁定に限らず、審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるから、プレーヤー、監督、コーチ、または控えのプレーヤーが、その裁定に対して、異議を唱えることは許されない。
38. 攻守交代はかけ足でスピーディに行うこと。監督、コーチが投手のもとへ行き来する場合も、小走りでスピーディに行うこと。
39. **試合の撮影およびウェブサイト、SNS等への配信について**
試合を撮影する事は構わないが、本部・球場に許可を得ること。また、SNSでの配信（ライブ配信含む）は禁止とする。 撮影行為や無断配信について、トラブルが発生した場合、当連盟では一切責任を負わない。

※大会特別事項：雨天等で延期日数によっては大会を途中打ち切る場合がある。
※大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森にて試合を行うチームは、球場ルールにより、高反発複合バットの使用を禁止する。